

<資料>

英語リスニングにおけるテキストへの親密性の一考察 ーテキストが親しみ深い物である場合それがどうリスニングに影響を及ぼすかー

金子史彦 信州大学学術研究院教育学系

A Study of How One's Familiarity to Listening Text Has an Influence on his Listening Comprehension

KANEKO Fumihiko: Institute of Education, Shinshu University

This study investigated the influence of listener's familiarity with text. If one is familiar with a text, he seems to be able to listen and comprehend it better. However, the opposite case can also be supposed. He might rely on already-known information without listening well. Comparing the examination performance using a story which is familiar to many examinees and another which is not familiar to most examinees, only positive influence of familiarity was observed. Thus, listener's familiarity with text has a good influence on his listening comprehension.

【キーワード】 英語リスニング リスニング教材 親密性 先入観 影響

1. はじめに

本稿は英文を聞き取るにあたって、その英文が聞き手にとって親しみ深い物である場合、それがリスニングにどのような影響を及ぼすのかを実験・考察するのが目的である。多くの人は「親しみ深い物のほうがそれに関する予備知識も豊富であり、よって純然たるリスニング能力以上に良く聞き取ることが出来る」と考えるであろう。それは当然想定されることである。しかし逆にマイナスの結果も考えられないわけではない。それは親密性の高さ・基礎知識によってバイアスがかかるということである。聞き始めて直ぐに「この話なら知っている」という意識を持った場合、実際に流れている英文を聞き取るのではなく、実際には既知の事実にも関わらず、リスニングを行っているつもりになっているということも十分に考えられるのである。

英語のレベルとしては同程度で、被験者に親しみ深いと思われる話と、親しみ深くないと思われる話を聞かせ、それぞれをどれだけ正確に聞き取ったかを調査するという実験を行い、その実験結果を分析し、テキストへの親密度がリスニングにどう影響するのかを考察するのが本研究である。

2. 実験の概要

実験に使う二つのリスニング教材は共に ICB 対訳ライブラリーの“Beauty and the Beast”（「美女と野獣」）と“The Three Spinning Women”（「糸を紡ぐ三人の女」）を用いる。この二つを選んだ理由であるが、先ず第一に、この二つの教材は同じ出版社の同じシリーズに含まれているものであるから、英語の言語的レベルとしては同程度であると見なせるからである。第二に、前者はディズニーのアニメーション映画を通じて日本で非常に良く知られている作品なのに対し、後者は余り知られていないと思われるからである。丁度タイムリーなことに前者はこの実験を行う数か月前に、そのディズニーアニメーションを下敷きとした実写版の映画が話題作として公開され、その傾向にさらに拍車がかかったと思われる。そして第三としてこの実験の題材として非常に適していることであるが、日本での“Beauty and the Beast”の知名度は前述のディズニー映画に因るところが非常に大きいのであり、原作を読んだことがある人々はそれほど多くはないと思われるが、今回聞かせるのは原作を下敷きとしたリスニング教材であるということである。ディズニー映画も原作も大筋では同じであるが、細部では様々な相違点がある。先ず一番大きな相違点として、主人公であるヒロインの名前である。ディズニー版ではアニメーション映画でも実写版映画でも、彼女はベルという名前である。しかし今回使用する教材では彼女の名前はビューティである。“Beauty and the Beast”は元来フランスの作品であり、ビューティ (beauty) にあたるフランス語がベル (belle) なのである (ディズニー版のアニメーション映画で Beauty=Belle を思わせる箇所は、町の女性が歌う歌の中で“Belle means Beauty”という趣旨の一節が出てくる一箇所しかない)。しかしリスニングを初めて直ぐに「これはあの美女と野獣だ」と理解した被験者は、登場人物の名前を聞かれる問いでビューティではなくベルと答えてしまうことも考えられる。そのような結果が出た場合、その被験者は自分ではリスニングを行っていると思いながら実際には既存の知識に頼っていると判断してもいいであろう。その他、後で述べるようにディズニー版と異なる点が原作を下敷きとしたこのリスニング教材にはいくつもある。こういった理由でこの二つのリスニング教材を今回の実験に用いることに決めたのである。

“The Three Spinning Women”が4頁に過ぎないのに対して“Beauty and the Beast”は34頁にもわたる。そこで後者に関しては結末の場面、ビューティが野獣の元に帰ってきて、野獣が王子へと姿を元に戻す箇所だけを聞かせる。これなら3頁に収まる。さらにこの箇所にはディズニー版には無い描写がいくつか存在する。先ずディズニー版には登場しないビューティの兄たちが登場する。逆にディズニー版では魔法によって家具等に変えられていた王子の家来達が人間の姿に戻るが、このリスニング教材では王子のかつての王国の人々は皆、王子が魔女に野獣の姿に変えられた時に魔女によって連れ去られてしまったことになっている。野獣が王子の姿へと戻った時に人々が現れたという描写はあるが、それがかつて連れ去られた人々なのかは言及されていない。さらにビューティの意地悪な姉たちが石像へと変えられたとされているが、これもディズニー版には無い。そもそもディズ

ニー版には主人公の姉妹は登場しない。こういったことをしっかりと聞き取れたかを判断するために、次に挙げるリスニング後に行うテストにそれを調査できる問いを含める。

“Beauty and the Beast”のリスニング後に行う調査テストは表1のとおりである。

表1 “Beauty and the Beast” のリスニング後に行う調査テストの問一覧

以下の問に答えて下さい。答えは英語でも日本語でもかまいません。

- 1) この話のタイトルを知っていますか。知っていたら書いてください。
- 2) 聞いた英文に登場するキャラクター（固有名詞がわかる場合は固有名詞で、そうでない場合は普通名詞で）を解るだけ多く書いてください。
- 3) この英文中でキャラクターの姿の変化が2件起っている。その2件を書いてください。

問1は聞いた英文が“Beauty and the Beast”であるということが分かったかどうかを問うものであり、被験者の聞いた題材に対する親密性を測ることが目的である。問2は問1で測った親密性がどのようにリスニングに影響を与えるかどうかを測ることが目的である。上で述べたようにディズニー版ではベルと呼ばれている主人公のヒロインは、今回の実験で聞かせる英文ではビューティーである。また野獣が王子の姿に戻ったときディズニー版では特に固有名詞である名前は出てこないが、IBC版ではロドウィック王子（Prince Rodwick）という名前を名乗る。問3も問2と同じような目的である。2件のキャラクターの姿の変化というのは、1件は当然野獣が王子の姿に戻ったことであるが、もう1件はディズニー版では描かれていないビューティーの意地悪な姉たちが石像へと変えられた件である。この英文が「美女と野獣」であると分かり、しっかり聞き取らずに既存の知識で答える被験者はその姉たちの件ではなくディズニー版でのみ描かれている、魔法によって家具等に変えられていた王子の家来達が人間の姿に戻った件を挙げてしまうことも考えられる。

“The Three Spinning Women”のリスニング後に行う調査テストは表2のとおりである。

表2 “The Three Spinning Women” のリスニング後に行う調査テストの問一覧

以下の問に答えて下さい。答えは英語でも日本語でもかまいません。

- 1) この話を以前から知っていましたか。教えてください。
- 2) 聞いた英文に登場するキャラクター（固有名詞がわかる場合は固有名詞で、そうでない場合は普通名詞で）を解るだけ多く書いてください。
- 3) この英文中で明らかな嘘が2回つかれている。その2つの嘘を書いてください。

“The Three Spinning Women”は“Beauty and the Beast”と異なり、話全体を聞かせるためタイトルも当然その中に含まれる。しかしこの話は余り知名度が高くないと思われるため、問1は“Beauty and the Beast”の場合と同様に、被験者の聞いた題材に対する親密

性を測ることが目的である。そして問 2, 問 3 は問 1 で測った親密性がどのようにリスニングに影響を与えるかどうかを測ることが目的である。予測される結果としては、この話を知っている被験者は少ないと思われるので、純粋にリスニング能力を測る問いとなることが期待される。そして“Beauty and the Beast”のテストとの比較によっても、聞く題材への親密度とリスニング能力の関係性が検証出来るであろう。

具体的な実験方法は、先ず“Beauty and the Beast”の英文を 10 回聞かせてその後表 1 の調査テストを行う。その次に“The Three Spinning Women”に関して 10 回聞かせた後表 2 の調査テストを行う。調査テストの用紙は両方とも、それぞれの英文を聞かせた後に配布する。

3. 実験の結果とその分析

この実験は『英語基礎』という授業の受講生を被験者にして行った。この『英語基礎』は主として小学校外国語活動に有効となる様々な内容面の知識を学ぶことを目的とした授業であり、信州大学教育学部においては小学校教諭一種免許状を取得する上での選択必修科目の一つとなっている。小学校外国語活動の導入にともない最近受講生、特に英語教育コース以外の学生の受講生が増えている授業である。また小学校外国語活動を主眼とした授業であるため、童話作品を用いる今回の実験にも適していると判断される。

しかしこの実験には問題点も少なからずある。先ず“Beauty and the Beast”を用いた実験と“The Three Spinning Women”を用いた実験は共にかなりの時間を要するため、二つの実験を一度の授業時間、90 分で行うことは不可能である。それ故それぞれ別の日に行ったわけであるが、そうすると全く同じ被験者を対象とした実験とはなりえない。ちなみに“Beauty and the Beast”の時の被験者は 34 人、“The Three Spinning Women”の時の被験者は 36 人であった。そもそもこの実験でリスニングの後で行う調査テストは無記名で行ったため、同一の被験者による二つの実験の結果を比較することは出来ない。そのような問題点を踏まえた上で、実験結果を分析することで、一般的な傾向を考察していきたいと思う。

“Beauty and the Beast”のリスニング後に行う調査テストの問 1「この話のタイトルを知っていますか。知っていたら書いてください。」に対しては 34 人全ての被験者が「美女と野獣」あるいは“Beauty and the Beast”（定冠詞が付いているものも含む）と答えている。やはり予想通りこの作品に対する被験者の親密性は非常に高いことが証明された。問 2 に対する回答の集計結果は表 3, 問 3 に対する回答の集計結果は表 4 の通りである。（表 3～6 の見方であるが、左の欄に書かれている言葉が被験者が書いた回答であり、その右の欄の数字がその回答を書いた被験者の数である。）問いを集計するにあたり、こちらの解釈で一見異なる回答を同じグループにまとめたりもした。「美女」「ビューティー」「beauty」等は当然同じものとみなしたが「王女」「プリンセス」などもそれと同じグループに含めた。何故なら確かにビューティーは最終的に王子と結婚するのであるから王女、プリンセスに

なるわけであるからである。しかし「野獣」と「王子」、「老婆」と「魔女」のように同一人物ではあっても明らかに風貌の変化が起きているものは別のグループに分けた。

表3 問2に対する回答の集計結果

被験者の書いたフレーズ	回答者数 (名)
ビューティー	32
ベル	2
ベラ	1
野獣	32
王子	14
ビューティーの父親	13
魔女	16
老婆	12
妖精	8
女王	1
城の人々	6
国じゅうの人々	13
ビューティーの姉達	10
ビューティーの兄達	10
王子の父	1
王子の姉妹	1
野獣の姉達	1
王子かプリンセスの兄弟, 父	1
王子か王女の姉	1
ハンサムな人	1

表4 問3に対する回答の集計結果

被験者の書いたフレーズ	回答者数 (名)
野獣の姿からハンサムな王子の姿になった	28
ハンサムな人間が野獣に変えられた	15
美女→野獣→美女	1
ベルがプリンセスになった	1
野獣が冷たくなって倒れている	1
弱っていた野獣が生き返った	2
姉達が石像に変化	5
姉がストーンスタンシューズからもとに戻った	1
妖精が石像に変わる	1

この結果から読み取れるのは、聞く題材への親密度はリスニングにそれほどバイアスのような負の影響は及ぼさないのではないかということである。この“Beauty and the Beast”への被験者の親密性は非常に高いにも関わらず、予想に反して問2でベル、及びおそらくベルの誤植と思われるベラと答えた被験者は3人に過ぎなかった。また問3で「魔法によ

って家具等に変えられていた王子の家来達が人間の姿に戻った件」を挙げた被験者は一人もおらず、問 2 においてそれと関連する（城の人々）を挙げたのも 6 人に過ぎなかった。これはディズニー版には無い、問 2 の「ビューティーの姉達」や「ビューティーの兄達」の 10 人よりも少なく、問 3 の「姉達が石像に変化」の 5 人とほとんど変わらない数字である。こういったことから判断して、“Beauty and the Beast”での実験では、例え親密性の高い題材を聞く場合でも、自分ではリスニングを行っていると思いつながら実際には既存の知識に頼っている傾向が高いというような、親密性の負の影響は見られなかった。しかし問 3 において「野獣の姿からハンサムな王子の姿になった」と 28 人も正当しているのを見ると、上記の姉達の石像への変化等の正答数と比較しても、親密性はリスニングを助ける面があるのは認められた。

“The Three Spinning Women” のリスニング後に行う調査テストの問 1 「この話を以前から知っていましたか. 教えてください」に対しては、被験者 36 人中 34 人が「知らない」、1 人が「細かな内容までは知らないが、この話は知っている.」、1 人が無回答であった。予想通り、この作品に対する被験者の親密性は非常に低いことが証明された。問 2 に対する回答の集計結果は表 5、問 3 に対する回答の集計結果は表 6 の通りである。こちらの実験の集計でも、“Beauty and the Beast”の時同様のようなグループ分けをした。

表 5 問 2 に対する回答の集計結果

被験者の書いたフレーズ	回答者数 (名)
母	32
娘	28
女王	30
Old woman whose right foot is big	36
Old woman whose mouth is big	36
Old woman whose right arm is big	36
歩けない女の子	4
王子	26
Queen's daughter	1
継母	1
Sister	1
Men	4
Other girls	4
3 人の娘	1
道具屋	1
ラビット	1
息子	1
人形	1
女	1

表6 問3に対する回答の集計結果

被験者の書いたフレーズ	回答者数 (名)
女王に対する母親の言葉	10
部屋を作るのに10年かかったこと	1
娘が3人をおばであると言ったこと	8
娘は100年も働く必要はなかった	1
3人の変な見た目の女が働かない娘に優しくしてくれたこと	1
糸の原料のせいで口が大きくなったこと	4
糸を持っていたせいで手が大きくなったこと	4
娘がすべて糸を紡いだと言ったこと	4
仕事が終わったら部屋を出ていい→仕事は終わる量ではなかった	1
3人の娘を助けた女性を結婚式に招待すること	1
3人の女性のことを覚えていたら、女が結婚して幸せになれること	1

この結果から明白なのは、母、娘、女王、three old women (単純に「三人の老女」「three old women」のように一まとめで答えている場合も、「Old woman whose right foot is big」「Old woman whose mouth is big」「Old woman whose right arm is big」の三項目に分けて正答として集計した)、王子のような主要、かつリスニング題材の中でその行動や台詞が多く描かれている登場人物に関しては聞き取れた被験者が非常に多いということである。これは「Beauty and the Beast」の問2において、ビューティーや野獣を聞き取れた被験者が多いのと全く同じ傾向である。問3の正答は、一つ目が、娘が働かないためにその母親が腹を立てて娘を叩いていたところをたまたま女王が通りかかり、叩いている理由を尋ねたところ、母親が本当の理由は言いたくなかったため「娘は糸を紡ぐのが好きで、糸車から離れようとしなからず。おまけに貧しくて、娘に糸を紡ぐ材料を買ってやれません」と言ったこと、つまり表6では「女王に対する母親の言葉」の項目、二つ目が、娘に代わって糸を全て紡いでくれた3人の老婆を、娘が自分のおば達であると偽って結婚式に招待したこと、つまり表6では「娘が3人をおばであると言ったこと」の項目の2つである。「娘がすべて糸を紡いだと」のは明らかに事実と異なるし、娘が女王に「自分で全ての糸を紡ぎました」というようなことを言ったのであるなら(恐らく言ったのであろう)明らかに嘘であるが、今回のリスニング教材の中ではそのことは明らかにされていない。老婆たちが言った、自分の口や手が大きくなった理由もその真偽は今回のリスニング教材の中では明らかにされていない。よって正答はそれぞれ10人と8人ということになる。これは上でみた「Beauty and the Beast」での実験で、純粋にリスニング能力が問われる正答、ビューティーの姉達、ビューティーの兄達、ビューティーの姉達の石像化等とほぼ同じ結果である。一方、「野獣の姿からハンサムな王子の姿になった」のような高い正答率のもの

はこちらの問3では無かった。純粋なリスニング能力を反映しているといえるであろう。それと同時に、テキストへの親密性はリスニングを助ける面があるということの証明にもなるであろう。

4. まとめ

今回の実験では英文を聞き取るにあたって、その英文が聞き手にとって親しみ深い物である場合、それがリスニングに好影響を与える面は見られたが、負の影響は認められなかった。つまり英語リスニングにおいて題材となるテキストへの親密性はプラスにこそなれマイナスにはならないということだ。

もっとも前章の冒頭で述べたように、今回の実験は様々な課題もこなしているのも事実である。特に匿名で調査テストを行ったため、同一の被験者が親密性の高いリスニング教材と親密性の低いリスニング教材ではどのような聞き取りをする傾向があるのか、また純粋にリスニング能力とテキストへの親密性の関係を調査・分析することが出来なかったのは今後課題を残した。

文献

グリム兄弟, 2015, “The Three Spinning Women”, 『英語で読む グリム名作選』, 出水田隆文解説, 宇野葉子訳, IBC パブリッシング株式会社, 東京, pp.82-92

Retold by Xanthe Smith Serafin, 2013, “Beauty and the Beast”, 『英語で読む 美女と野獣 /眠れる森の美女』, 出水田隆文解説, IBC パブリッシング株式会社, 東京, pp.9-87

(2017年8月1日 受付)